

SDGsと関西経済

近

畿経済産業局とJICA（国際協力機構）関西が中心となって、ビジネス視点からのSDGs（持続可能な開発目標）を推進する「関西SDGs貢献ビジネスネットワーク」のキックオフ会合が先月開催され、関西経済連合会副会長としてあいさつした。300人以上の出席者があり、関西経済の好調さが感じられた。2015年に国連で採択された、持続可能な社会の実現に向けた国際統一目標であるSDGsだが、関西経済界でも各企業が本格的にこの目標に取り組みプラットフォームが設置されたのである。

SDGsには17の目標と169のターゲットがあり、経済成長と健康、医療、農業、食糧、環境、気候変動、エネルギーなどの社会的課題の解決を指標として、一人一人が快適で活力に満ちた生活ができる未来社会の創造を基本理念としているが、これはまさしく関西経済界がもたらされているものでもある。

関西はアジアのゲートウェイに加え、豊かな歴史や伝統、食などの多様な文化によって、多くの外国人が訪れている。インバウンド景気もあり、明るさを取り

戻しつつある関西経済界では、「ルック・ウエスト」と「グローバル対応」という視点から、本年11月に決定される2025年万国博覧会の大阪・夢洲（ゆめしま）への誘致を、政府・自治体と一体となって努力している。大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」であるが、これはSDGsの「持続可能な開発目標」ともほぼ合致するものだ。



大坪 清

レンゴウ会長兼社長

万博開催予定地である夢洲には、世界レベルの規模と質で整備された国際会議場や展示場（MICE）、ホテル、その他娯楽設備などを含めた統合リゾート（IR）を誘致すべく、関西が一丸となって経済の活性化に努力している。今回の関西SDGs貢献ビジネスネットワークが、さらなる起爆剤になるものと期待したい。関西には、エレクトロニクスや医療・ライフサイエンス、環境・省エネをはじめ、イノベーションをけん引する産業が集積しており、地球規模でのSDGs達成を先導できる大きなポテンシャルを持っている。2025年の大阪・関西万博の開催は、2030年を期限とするSDGsの達成を大いに加速するだろう。関西がSDGs実践の先進地域となり、まさに万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」に謳う未来社会の実験場として、社会課題の克服と同時に経済の活性化が図られることを大いに期待する。

「ルック・ウエスト」とは、東京一極集中ではなく、わが国が東西2軸で成長することの重要性和、成長著しい中国・東南アジアのダイナミズムを取り入れて、共に発展することの重要性の2つの意味を持つ。かつて「ルック・イースト」と日本が敬意を払われた時とは逆に、今アジアのダイナミズムに見習いリスベクトを込めた「ルック・ウエスト」である。

来年はG20サミット、2021年には生涯スポーツの国際大会であるワールドマスターズゲームズの開催も予定されている。本年は関西がさらに大きく飛躍する年となることを願っている。

K